

生存基盤科学研究ユニット(宇治地区)

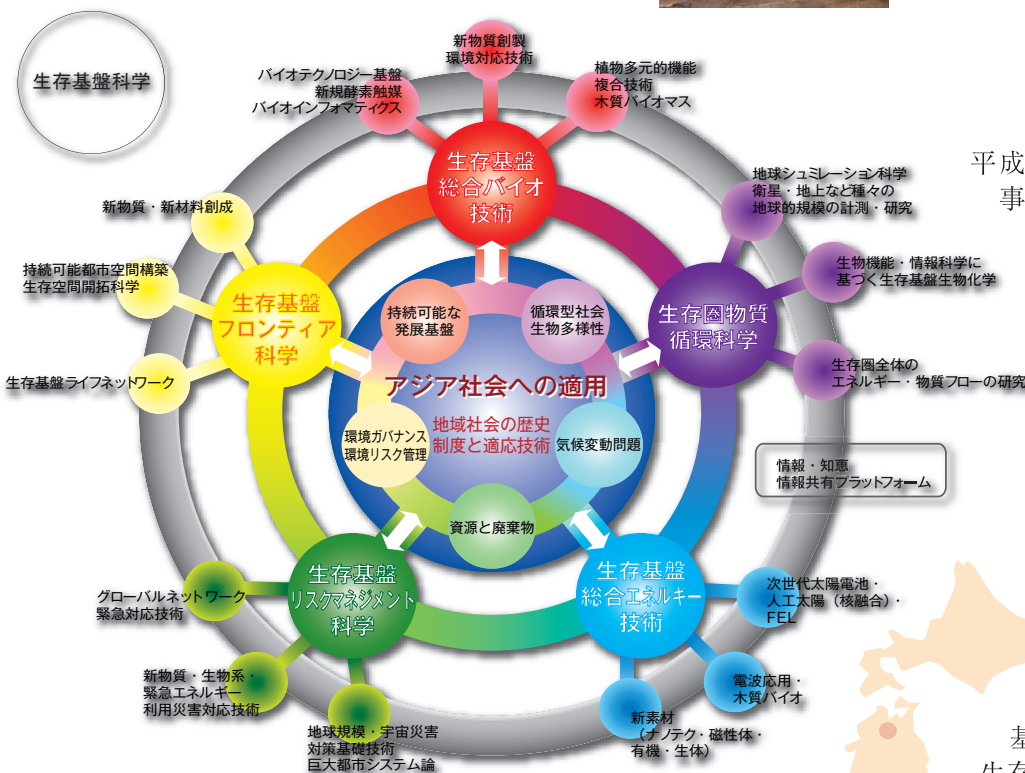
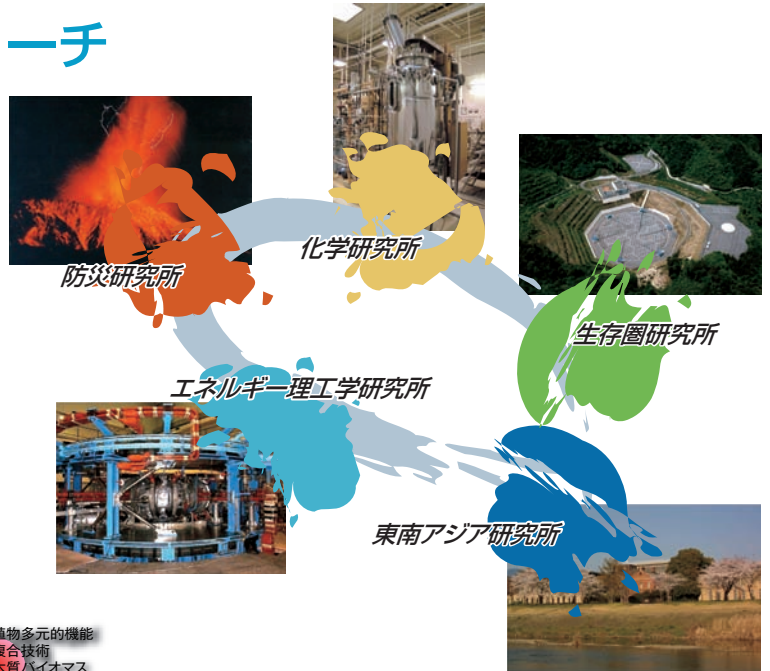
Institute of Sustainability Science

生存基盤科学研究ユニットは化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所、東南アジア研究所から構成された融合研究機関です。それらのうちの4研究所が宇治地区で研究活動を行っています。

21世紀型課題へのアプローチ

“地球を愛し、知を融合する”

「生存基盤科学研究ユニット」は、「人類と地球の未来」をどのように維持していくかという問題解決を目指して平成18年度に京都大学に設立された研究組織です。ユニットを構成する5研究所は、これまで専門分野の課題を深く探究するアプローチにより、膨大な知識を深化させてきました。同研究ユニットでは、これを融合し、分野横断型の課題を設定することで、既存専門分野を超え、温暖化、人口増、資源枯渇や巨大災害といった人類生存に関わる地球規模での問題に取り組んでいます。



平成20年度より4年間の新しい事業として、「生存基盤科学におけるサイト型機動研究」がスタートしました。当ユニットの分野横断型の研究に、京都大学が伝統とする地域研究の機動性を加え、人類の生存にかかる学際的な研究を単に机上の空論ではなく、実際のサイトに出た問題解決の実践と応用を、俯瞰的視野を持つ競争力あるリーダー的研究者の育成を含めて実施しようとするものです。研究基盤をキャンパス外に展開し、生存基盤科学の根幹である「物質循環」「生態メタゲノム」、「危機対応」を課題として、研究機関や他大学、自治体等とも協力しながら、青森と滋賀のサイトで機動的な活動を行います。

総合展示

(宇治おうばくプラザ)①